

第		14		回					
住	民	の	自	治	-	統	治	研	究
ご			あ		ん		な		い

現地取材「西成特区構想から見た貧困と福祉」の中間議論 -取材担当者からの報告-

と き:2012年12月8日(土)午後1時30分から4時

ところ:大阪自治体問題研究所会議室

西成は日本の貧困問題を含む社会問題が凝縮されている。現地研究会・取材を通じ、社会問題の凝縮地域の住民の自治・統治の事例としての中間議論を試みる。

前回 10.27 研究会の報告

◆現地研究会 - 萩之茶屋第6町会長・サポーターハウス「おはな」代表西口宗宏さんに西成区萩之茶屋の地域活動をたずねる - まとめ 佃 (当研究会事務局)

1. 地域の成立ちと特徴

- ①極端な男女比 - 2010年の男女比は男性 85.1%、女性 14.9%。1960年頃には子どものいる日雇い労働者もいた。原因⇒大阪市が家族を市内外の市営住宅に移転させ、逆に単身男性労働者をこの地域に流入させたことによる国・自治体の政策の帰結。
- ②1961年の西成暴動に起因する継続的な労働者と地域住民の分断⇒暴動は警察が生きている人にムシロをかぶせ救急車を呼ばなかったのがきっかけで、警察や行政に対するものだった。だが、労働者が悪者にされ、無法地帯と呼ばれ、労働者と地域が全国から差別される。警察、大阪市・府、国が、暴動を理由に労働者と地域住民と分断し、臭いものに蓋をする対応を取り続けてきた。
- ③非常な高齢化の影響と対策⇒釜ヶ崎地域の高齢化率は、大阪市 22.7%、西成区 33.8%に対して 42.0%。高齢化は日雇い労働者の減少、就労と貧困問題を生み出し、簡易宿泊所の経営や地域経済の衰退を引き起こす。まちを守る運動の必要性。

2. 西口さんの経歴と活動動機

- ①西口さんは「おはな」の代表、萩之茶屋第6町会長、大阪府簡易宿泊所生活衛生同業組合（以下、簡宿組合）理事、(仮称)萩之茶屋まちづくり拡大会議（以下、拡大会議）一員、『釜ヶ崎のまち再生フォーラム』（以下、再生フォーラム）副会長である。
- ②「おはな」はサポーターハウスとして運営され「ホームレス状態にある人達に対して安定した居住を保障する目的で再生フォーラム活動から生まれた簡易宿泊所転用アパート」。2000年に開業し、96室、スタッフ8名で運営。
- ③1960年代には最大2万室あった簡易宿泊所が減少し、自分の財産が危機に陥っていくことが西口さんを役員にしたきっかけ。その後簡宿組合理事として、労働者の住民票削除反対や生活権、選挙権などの権利擁護の活動、簡易宿泊所を守る活動を通じ活動範囲を拡大していく。

3. 労働者の個別支援から地域と共に支えるまちづくりへ - 町会再結成、拡大会議、再生フォーラムの意義

- ①釜ヶ崎地域には行政や民間の就労、福祉、居住支援に関する団体や施設が集積。1990年代末から労働者に対する個別支援から再生フォーラムに見られる個人・団体のネットワーク化や地域全体で支援する方向に変化。町会の再結成や拡大会議もその一つ。町会再結成は労働者と地域住民の分断策に対抗して、地域代表性を獲得することにより行政との関係を作っていく意味を持つ。
- ②釜ヶ崎地域には行政や民間の就労、福祉、居住支援に関する団体や施設が集積しているが連携が乏しく、活動している人達は、立場が違ってもみんなが話し合うことが必要だと感じる。⇒拡大会議の設立

4. まちづくり理念と方向 = 「このまちは誰も排除しないし、どんな人でもここに来たら生きていける支援の仕組みがある」ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）のまちづくり。

当研究会は自主研究会ですので、参加者には資料代1回=500円の負担の協力をお願いしています。

主催 = 住民の自治・統治研究会 (06-6354-7220)